

2. 街路樹管理の留意点と取り組み

(1)管理の留意点

○狭い歩道幅員に植栽された樹木の適切な剪定

狭い幅員の歩道にガジュマルやホルトノキ等の大きめの樹冠の樹木が植栽され、大木に育っているものがあり、その樹形管理として適切な剪定が求められる。

○樹木の生長に伴う植栽基盤の狭小化

樹木が大きくなるにつれて植栽基盤（植樹枿）が狭小化しており、舗装ブロックが根に食い込んだり、柵から大きくはみ出したりして舗装面を損壊している。根元に食い込んだ舗装ブロックが原因で倒木する例もあり、定期的な巡回・点検と対応を行う。

○従来 of 剪定方法に問題

これまで行われてきた剪定は、樹木を小さく納めようとして切り詰め剪定が主体に行われており、豊かなみどりを創出するという観点からは問題がある。管理目標の樹形（プロポーション）の設定で樹冠を上にも定め、なるべく大きく樹冠を設定する。但し、管理限界もあるので樹高は最大で10mとする。

○植栽間隔が狭く間引きの必要性

大型樹冠に育つ樹種の植栽間隔が狭いため、枝が交錯・競合し樹形がうまくつけれないといった状況がある。間引きを行い、樹木間の距離を離すことで一本ごとの樹木の樹形を良好にする必要がある。



□狭い歩道の大型種の植栽例
(若狭2号)



□植樹枿が狭小化してきた例
(崎山松川線)



□植栽間隔が狭い例
(牧志23号)



□これまでの剪定例-ガジュマル
(1国道58号)

(2)地域別管理方針

街路樹は、生き物である。よって、適切な維持管理を実施しなければ街路樹の機能も十分発揮できない。多種で構成された街路樹を亜熱帯庭園都市（ガーデンシティ）と称されるにふさわしいものにするためには、街路樹の管理を適正に行うことが極めて重要である。

那覇市は、地域により土地利用や街の状況及び住民特性（高齢化など）に変化があり、街路樹を管理するうえでもその地域特性に応じて実施することが住民ニーズをくみ取り、その地域の望ましい街路樹景観を創造することになる。

街路樹に対し市民の多様なニーズがある中、管理のあり方はその考え方で方法が全く違ったものになる。そこで各地域の街路樹の現況を大きく捉え、それぞれの地域にふさわしい管理の取り組みの考え方を示すこととする。

なお地域区分については「都市計画マスタープラン」や「みどりの基本計画」が行っている9箇所の地域区分に基づいた。

地域区分図



①那覇北地域

本地域は、区画整理された新たな住居及び商業地として整備された街並みに、天久公園をみどりの核として東西に国道 330 号と国道 58 号、南北は県道那覇北中城線と県道那覇糸満線に囲まれている。

それぞれの道路には重点的に緑化が行われ、景観面からも重要な役割を果たしている。

【市道の現況】

○市道は東西南北を通り、国道や県道と結節しながら地域の骨格を構成している。

○天久安里線は広幅員の道路で東西を結ぶ地域の軸線的な存在で、アカギを主木にアカバナイッペーやホルトノキの混植された街路樹がみどりのラインを形成している。

○天久銘苅線、銘苅真嘉比線及び真嘉比山川線は東西を結節する一本の道路として考えることができるが、植栽はコガネノウゼンやフィカスハワイなど複数樹種が植栽されている。このうちフィカスハワイはみどりの量感もあり良好であるが、それ以外は生育不十分で緑化効果を発揮していない。また、景観面からも統一性に欠ける。

○南北の県道と結節する銘苅泊線はリュウキュウマツの景観で軸線を形成している。

○古島真嘉比線は、早くから植栽されたトックリヤシモドキ区間は緑量感不足である。また、区画整理が済んだ区域のリュウキュウマツ、リュウキュウコクタンは、植栽されたばかりで緑化効果を発揮するまでには至っていない。

【管理の取り組み】

本地域は路線毎の植栽の状況に差があるため、街路樹の均等化、すなわち各路線の樹木の生育水準を一定水準まで引き上げる必要があり、次のような取り組みを行う。

○ 天久銘苅線、銘苅真嘉比線は緑量感のある樹種を補植する。

○ 樹形の崩れかけている真嘉比山川線のフィカスハワイは樹形を作り直し、ピーク時の街路樹景観を回復する。

○ 天久安里線のアカギや銘苅泊線のリュウキュウマツは健全な樹形管理を行い、安定した緑化効果を発揮できるよう努める。



天久銘苅線：タブノキ、コガネノウゼン等



銘苅真嘉比線：コガネノウゼン



真嘉比山川線：フィカスハワイ



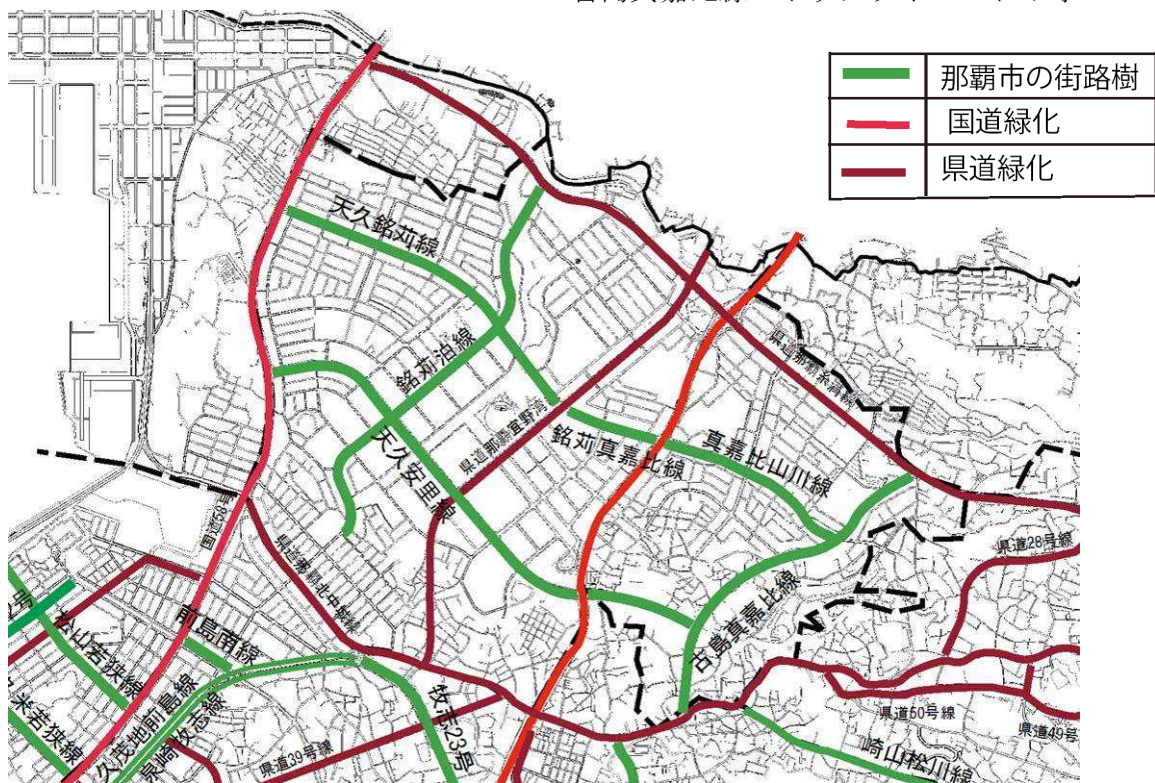
天久安里線：アカギ等



銘苅泊線：リュウキュウマツ



古島真嘉比線：トックリヤシモドキ等



②首里北地域

本地域は、那覇市の北東部に位置し、主として住居主体の土地利用のなかで県道宜野湾南風原線と県道那覇北中城線がみどりの骨格軸となっているが、総じてみどりの資源に乏しい。そのような状況にあつて、将来的にはモノレールが首里駅より延伸し、新たな街路の軸線が形成される予定である。

【市道の現況】

対象となる街路には鳥堀石嶺線がある。

○植栽はアカギを主木にホルトノキ、ホウオウボク、サガリバナ、リュウキュウコクタン等が添景種に用いられた混植の街路である。

○樹木の生育はいずれの樹種も良好であり、緑陰形成や街並み景観の形成にも貢献している。

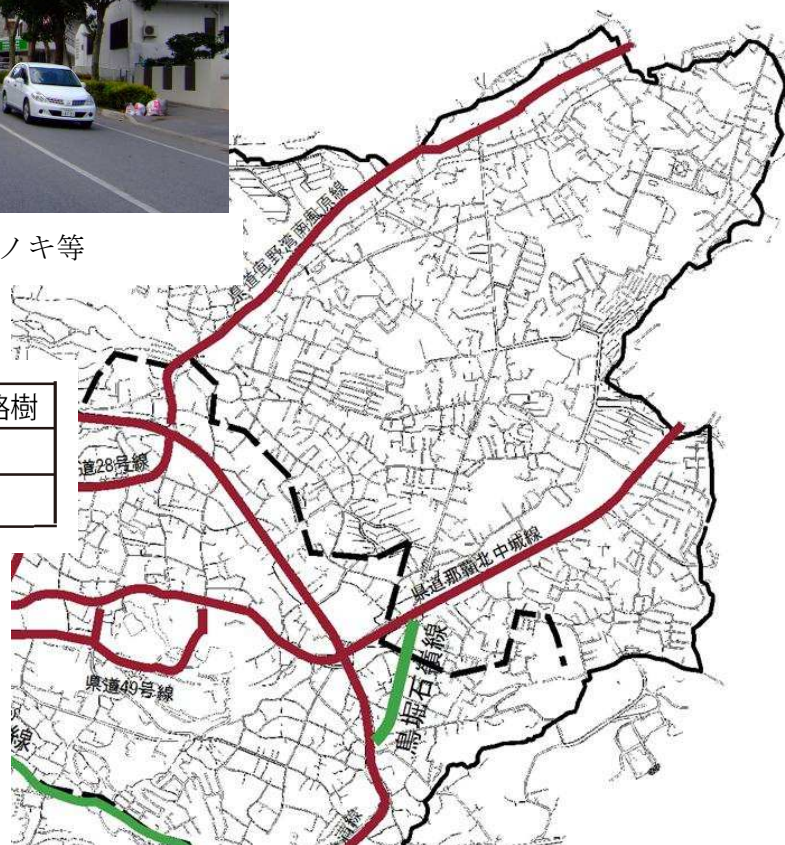
【管理の取り組み】

多種の樹木が植栽され、そのうえ良好に育っていることもあり、個々の樹木を適正に維持することで緑化機能を維持しながら、街並み景観の向上に努める。



鳥堀石嶺線：アカギ、ホルトノキ等

	那覇市の街路樹
	国道緑化
	県道緑化



③那覇西地域

本地域は西海岸に面した住居や商業地からなり、海岸には波の上ビーチがありウオーターフロント的な役割や歓楽街としての役割も果たしているため、地域住民のみならず多くの観光客が訪れる。

道路は、国道 390 号のほか県道 43 号線と県道 47 号線が骨格を形成しているが、このうち南北を通る県道 43 号線には植栽がなく、そのため緑化景観に乏しいイメージがある。

【市道の現況】

○市道は東西を松山若狭線、久米若狭線及び東町西線の 3 路線が国道と結節し、街中の幹線的役割を担っている。若狭 2 号は宅地内を通り、生活に密着した道路である。

○植栽をみると、松山若狭線がリュウキュウコクタン、久米若狭線はハウオウボク、東町西線にはモクマオウ、ホルトノキ等、若狭 2 号はホルトノキである。その生育は、全般的に良好であることから、街並み景観の向上に役立っている。

○特に久米若狭線のハウオウボクは、夏に開花し道路を飾り地域の名所になりえるほどの華やかさを有する。

【管理の取り組み】

いずれの路線も成木に育っており、これら街路樹の樹形管理を適正に行うことにより、みどり豊かで緑陰のある快適な街並み環境を保持することとする。



松山若狭線：リュウキュウコクタン



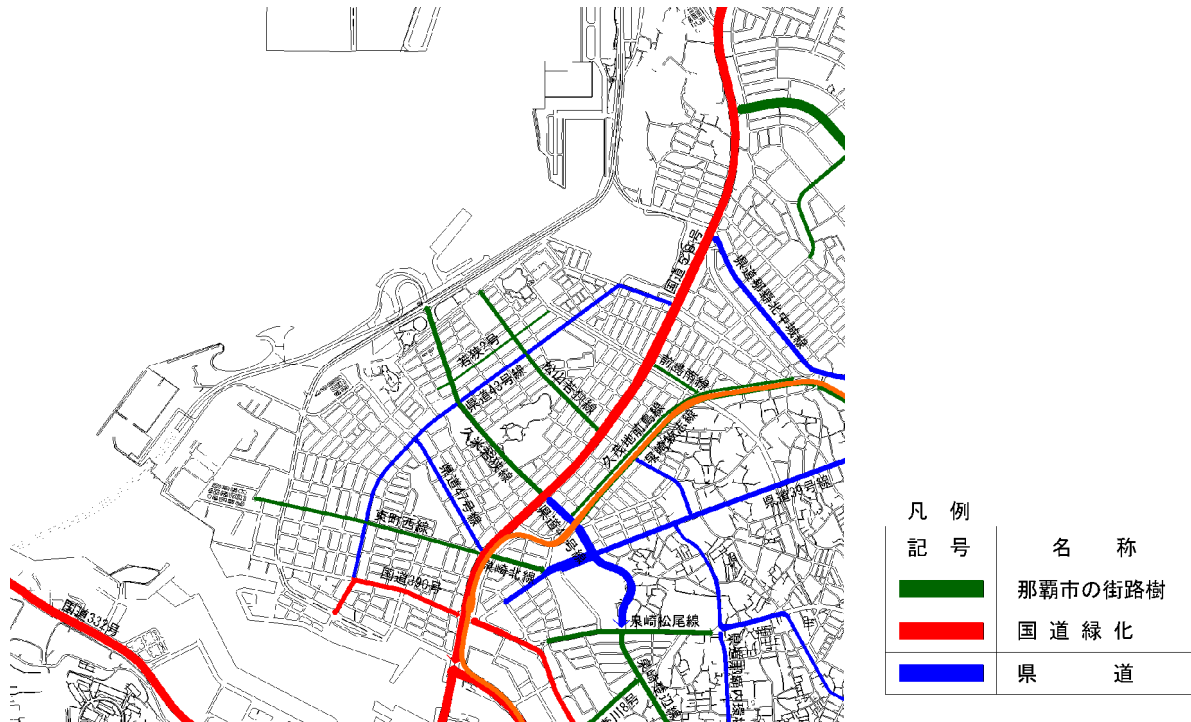
久米若狭線：ハウオウボク



東町西線：モクマオウ、ホルトノキ等



若狭 2 号：ホルトノキ



④那覇中央地域

本地域は、県都である那覇市の中心市街地であり、県庁や県議会等の官公署が集積する。国際通りと呼ばれ観光客が集中する県道 39 号が中心に位置し、久茂地川とモノレールも通る。土地利用としては商業や住居利用を主体とし、外周を国道 58 号、国道 330 号及び県道那覇北中城線に囲まれている。

景観面からは、都市景観形成地域として壺屋重点地区があり、再開発された安里のサイオンスクエアを有し、水とみどりの魅力的な資源が多い。

【市道の現況】

○市道は国道や県道に縦横に結節し、道路機能を補完する。延長は短い、10 路線が該当する。

○久茂地前島線、牧志 23 号、泉崎牧志線は、水辺環境とデイゴ、クロヨナ、ホウオウボク等の多種を用い、重点的に緑化が行われたモノレールのルートとして景観軸を形成している。

○前島南線も水辺景観を有し、タイワンプウで良好な街路景観を形成している。

○泉崎北線、泉崎松尾線は官公署に繋がり、ビロウを主木にリュウキュウコクタンやサルスベリ等の花木を添景種にした観賞効果の高い街路である。

○壺川 8 号と壺川 18 号は、住居と官公署を繋ぐタイワンプウ、トックリキワタ、センダン、ピンクテコマの豊かなみどりと花の街路である。

○城北小北側線は、リュウキュウマツとシンボルツリーのガジュマルの植栽で、とりわけ郷土イメージの強い街路である。

【管理の取り組み】

本地域は那覇の中心市街地の街路であり、植栽樹木も多種多様である。また、植栽樹木は全体的に大きく育っていることから、個々の樹木の特性が発揮できるよう樹形管理を適切に実施して緑化効果を最大に発揮できるように務める。



久茂地前島線：ガジュマル、クロヨナ



牧志 23 号：ホウオウボク、マニラヤシ



泉崎牧志線：オオバアカテツ等



前島南線：タイワンフウ



泉崎北線：ビロウ、しだれブラシノキ等



泉崎北線：ビロウ、リュウキュウコクタン等



壺川 8 号：タイワンプウ等



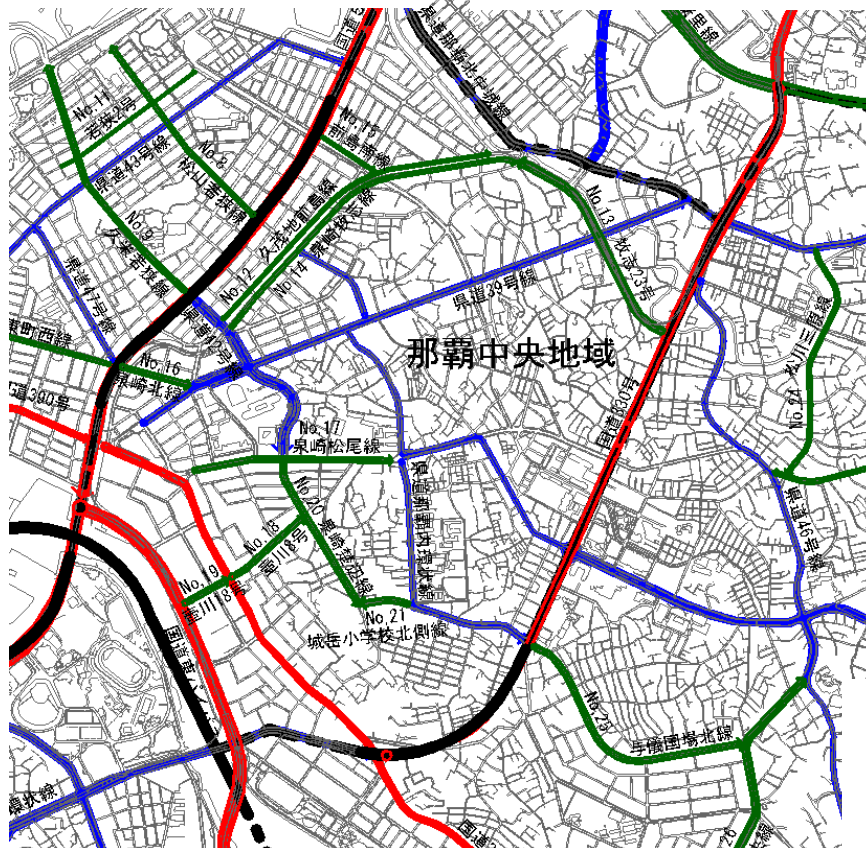
壺川 18 号：センダン、ピンクテコマ



泉崎楚辺線：オオバナソシンカ等



城岳小北側線：リュウキュウマツ



⑤真和志地域

本地域は那覇市の東部にあり、外周は県道那覇北中城線や国道 330 号と国道 331 号が囲んでいる。これら県道と国道の緑化は断片的であり、みどりのラインとしては不十分である。土地利用としては住居を主体とするが、金城ダムや世界遺産である識名園等があり、みどり資源となっている。また、地域の中央部の東西を県道真地久茂地線が通り、トンネルを伴って新たな道路景観を形成している。

しかしながら、地域としてとらえればみどりの存在が少ない地域である。

【市道の現況】

○市道は国道と県道を縦横に補完し、5 路線が管理対象路線である。

○崎山松川線は金城ダムと隣接し、リュウキュウコクタンを主木に比較的明瞭なみどりのラインを形成している。

○上間三原線は歩道幅員が狭いにもかかわらず、クチナシやコガネノウゼン等の花木やリュウキュウコクタンの植栽で一定の緑化効果をあげている。

○松川三原線も歩道幅員は狭いが、その条件に適した樹形のフクギを用いていることから、良好な街並み景観が形成されている。

○与儀国場北線と国場中央線は、トックリキワタとハウオウボクの花木を主体に、緑陰樹のイスノキを組み合わせ明瞭なみどりのラインを創出している。

【管理の取り組み】

みどりの存在が少ない地域であることから市道の果たす役割が重要となるため、現状の植栽を道路条件の中でうまく生かしながら緑化効果を発揮させることに務める。コンパクトでも見栄えのする街路樹として育て上げることを目標とする。



崎山松川線：リュウキュウコクタン等



上間三原線：クチナシ、コガネノウゼン等



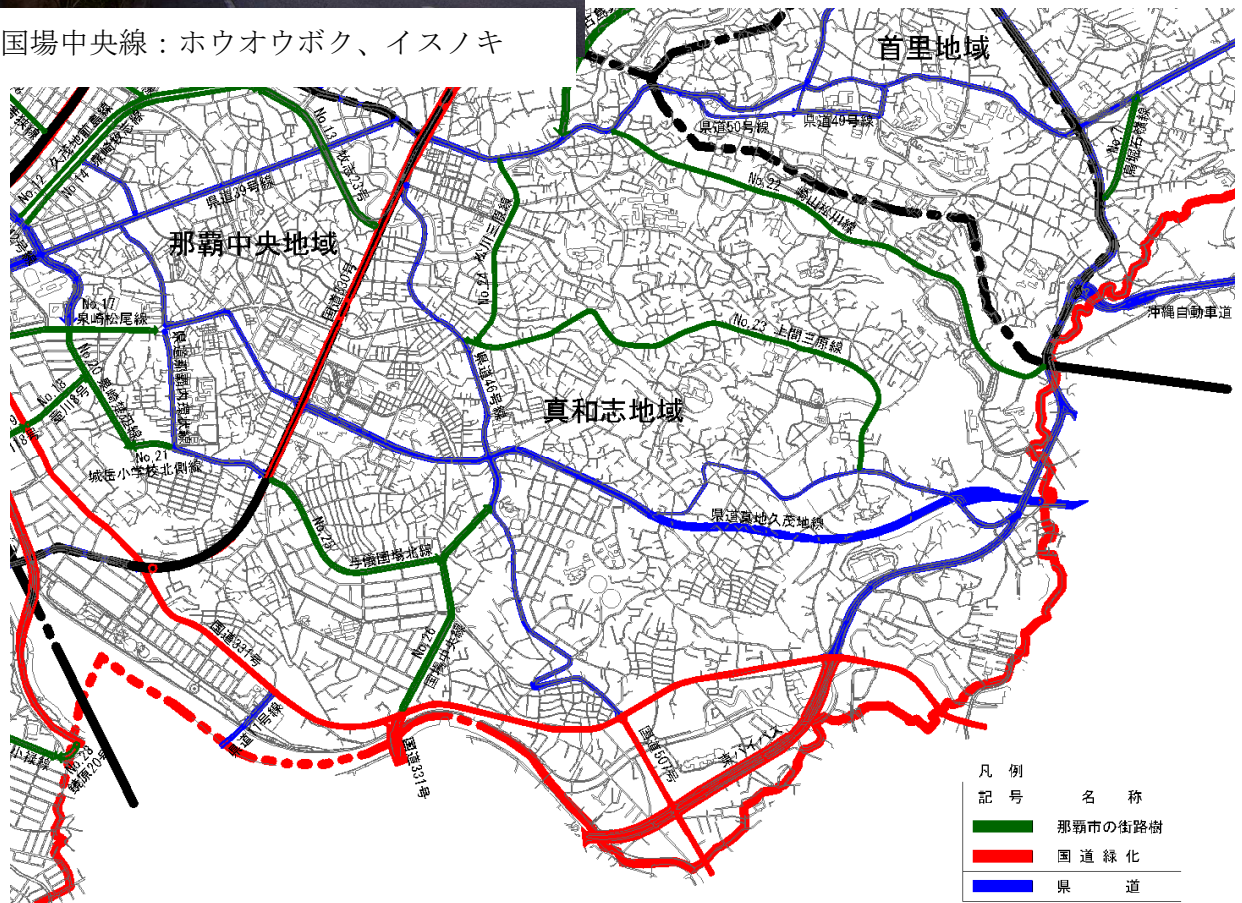
松川三原線：フクギ



与儀国場北線：イスノキ、トックリキワタ



国場中央線：ハウオウボク、イスノキ



⑥小緑地域

本地域は那覇市の南西部にあり、国道 331 号バイパスと県道奥武山米須線及びモノレールの軌道を伴う県道那覇内環状線が街の骨格をつくっている。とりわけ、モノレールの軌道下には重点的な緑化が行われ、街の軸線となっている。

土地利用としては住居を主体としており、区画整理された金城地区には新たな市街地景観が生まれ、学校や公園等がみどりの資源となっている。しかし、それ以外の街には植栽された街路は乏しく、総じてみどりの資源は乏しい。

【市道の現況】

○市道は、中心軸の県道那覇内環状線を横断するもの、国道と県道を結節するものなどがあり 6 路線が街路樹管理の対象となる。

○鏡原小緑線と鏡原 20 号線は、タイワンフウを基調に緑量感のある景観を形成し、良好な街並み景観の形成にも役立っている。

○田原 11 号は、区画整理された街にタブノキやセンダンの郷土種を主体とした植栽が行われている。まだ、樹木の十分に生育しておらず、緑化効果を発揮していないが、今後伸長するに伴い緑化効果を発揮することが期待される。

○田原小緑中線は距離的には短いがハウオウボクが大木になり、拠点的ではあるが花によって飾られている。

○赤嶺 2 号は緑陰効果に優れたインドシタンが植栽され、豊かなみどり景観とともに緑陰のある快適な歩道環境を形成している。

○小緑金城 1 号は、新たな街の中でガジュマルが郷土イメージを放ちながらみどりのラインを形成している。

【管理の取り組み】

みどりの資源に乏しい地域であるため、街路樹が果たす役割が重要である。このため、景観効果の高いガジュマル、インドシタン等の樹形管理を適正に行い、景観軸となっている県道那覇内環状線とみどりのネットワークを構築する。



鏡原小緑線：タイワンフウ



鏡原 20 号：タイワンフウ等



田原小緑中線：ハウオウボク



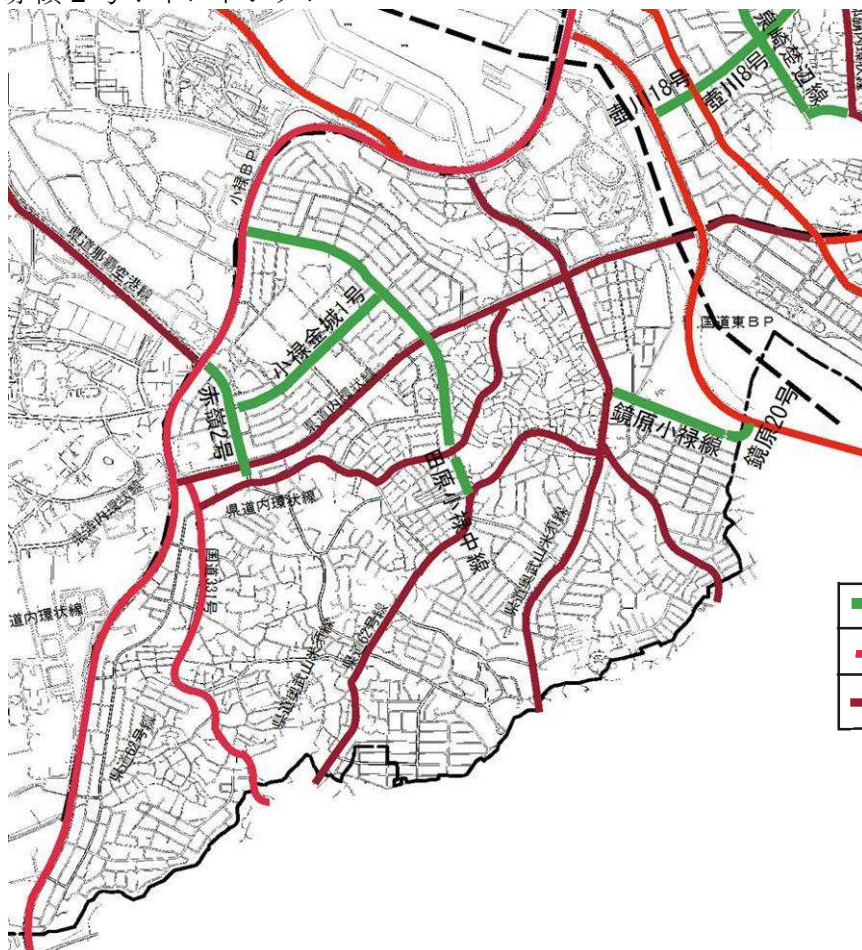
田原 11 号：タブノキ、センダン






赤嶺 2 号：インドシタン



小緑金城：ガジュマル



	那覇市の街路樹
	国道緑化
	県道緑化

調査対象路線図

